

# 自治連よなご

第67号

令和7年(2025年)3月1日発行

発行 米子市自治連合会  
(事務局 米子市総合政策部地域振興課内)

編集 『自治連よなご』編集委員会

## 移動図書館車「つつじ号」のお披露目について

米子市自治連合会創立70周年記念事業実行委員長 奥田 登

令和6年12月4日、師走の空から日が差す中、米子市立図書館前庭において移動図書館車「つつじ号」のお披露目を、伊木米子市長、浦林教育長、杉原米子市文化財団理事長のご臨席を賜り、29地区の自治連合会長及び関係者の見守る中、盛大に挙行することができました。この事業は、令和5年に米子市自治連合会が70周年を迎えるにあたり、自治会の住民の皆様から寄附を募り実施できた事業です。



式に先立ちまして、伊木米子市長からは「多くの市民が新しいつつじ号を利用して読書に親しんでいただきたい。」また、田邊米子市自治連合会会長から「多くの方が本に触れることで教養のある人が育ち、米子市がますます発展することを願っています。」と挨拶されました。

つつじ号の側面には自治連合会のキャッチフレーズ「自治会活動は明るい未来を築く道しるべ」、大山や米子市の街並み及び図書館のキャラクター「よなぼん」などをデザインした、とても親しみやすい移動図書館「つつじ号」となっています。

結びになりますが、より多くの方がご利用いただきますようお願いいたします。



令和6年度 総務大臣表彰受賞 和田地区 和田四区自治会 会長 田邊 忠雄氏  
令和6年度 全国自治会連合会会長表彰受賞 車尾地区 車尾七区自治会 会長 高野 和男氏

# 魅力いっぱい！地域活動

## 長砂町自治会のとんどさん

明道地区 長砂町自治会会長 坪倉 毅

ドーン！！パンッパンッ！！激しい炎とともに燃え上がる青竹と正月飾りたち。毎年恒例のとんどさんです。このとんどさんには「歳神様をお迎えするために飾った正月飾りを焼いて歳神様を空へお送りする」という意味があるそうです。

開催日の前日に、近くの山から竹を5本切り出し、縄で縛り直立させ、倒れないように四方から縄で引っ張り完成します。約30分で立派なものが出来上がります。翌朝8時に火入れ。暖を取りつつ、無事燃えるのを見守ります。持参したお芋を焼いて楽しむ方もいます。

長砂町自治会は、加入世帯が340世帯余りで明道地区で最も大きな自治会です。以前は毎年8月15日に納涼盆踊り大会を開催していました。がいな太鼓



の演奏や盆踊り、いか焼き、焼きとうもろこし、焼きそば。飲み物はビールやジュース、子どもたちが喜ぶかき氷やあてくじ。そしてクライマックスには市販の花火数十発が打ち上げられ、毎年盛大に行われていました。

しかし悪天候のため中止となり、その翌年以降は新型コロナウイルス感染症の流行で中止が続いています。その中で、とんどさんだけは長砂町自治会の有志と事業部の皆さんの協力のおかげで毎年開催できています。

今後はコロナ禍で中止していたとんどさんでの振る舞い酒や食べ物も復活させ、より一層盛り上げたいと考えています。そして長年中止となっている納涼盆踊り大会も今できる形で復活させ、地域の交流や絆を深めたいと思っています。



過去の納涼盆踊り大会の様子

## 触れ合いのある明るい地域づくりをめざして

福米西地区自治連合会会長 大崎 薫

福米西地区は、10自治会、2112世帯の会員で構成されています。

どこの自治会も同じでしょうが、「集合住宅居住者の入会敬遠と会員の高齢化による退会で自治会加入率が低下」「役員に課される役割が多彩、多忙なため仕事を持つ若い人に敬遠されがちで、自治会によっては顔ぶれが変わることなく何期もその職に留まらざるを得ない」といった課題を抱えています。

とはいえ、選ばれた以上は地域の代表者として、地域の活性化と明るく触れ合いのある安全安心な地域とすべく地区の公民館と連携して、次のような諸行事に取り組んでいるところです。

公民館長の発案で、昨年からは取り組んでいる自治会巡りウォーキングとレコード鑑賞会について紹介します。

自治会巡りウォーキングは、月1回、各自治会の名所旧跡を巡り歩きました。



実施に当たって、当該の自治会長は押っ取り刀で自分の地区のことを猛々勉強し、参加者を先導案内したのですが、頭の活性化につながりましたし、地域を再認識するうえでも効果があったようです。レコード鑑賞会は公民館で2ヶ月に1回、M自治会長の焙煎抽出した美味しいコーヒーをいただきながら、ジャンルを問わず音楽を聴いて脳の活性化を図っています。いずれもフレイル対策に貢献しているものと自負しています。

また、例年通り運動会、納涼祭、公民館祭なども開催しました。

特に納涼祭では、フィナーレに福米西小学校の校庭において多彩な花火を打ち上げ、盛夏の中の清涼剤と大歓声を浴びました。公民館祭では、多彩な趣味、特技を持つ人の多さを認識するとともにキッチンカーの出店などで多くの人が参加して従来以上の賑わいがありました。

福米西地区は、住みやすい環境の下、まだまだ人口が増えていくと思われます。公民館側と力を合わせて自治会活動を更に活性化し、若い世代の自治会活動への参加、取り組みが増えていくよう努力していきたいと思っています。



## かわぐち

ゴム靴、合羽学校指定用品  
ステッキカー、バンジー商品取扱店

米子市四日市町67  
TEL 0859-22-3431  
FAX 0859-33-9960

医療・保健・福祉 ホスピタウンネットワーク



医療法人  
社会福祉法人

# 真誠会

米子ホスピタウン（河崎） 弓浜ホスピタウン（大崎）

米子中央ホスピタウン 外浜ホスピタウン 高齢者生活支援隊  
（西福原、富士見町、皆生） （和田町、富益町、夜見町）

米子市河崎580 TEL 0859-24-5666 <http://www.hospitown.or.jp/>

## 彦名水鳥ウォーク2024

彦名校区自治連合会副会長 上坂 厚生

令和6年11月3日、彦名校区自治連合会・米子水鳥公園共催の彦名水鳥ウォークを開催しました。朝7時から自治会長が集合して備品を搬出し、粟島神社での会場セットアップには宝くじ補助金で購入したアルミステージを活用し、9時から受付開始、開会式と準備運動の後10時にスタートしました。まさに老若男女、高齢者から小学生、ベビーカーに乗った赤ちゃんまで175名の参加者が一斉に歩き出し、前日までの大雨が嘘のように晴れ、ぬかるんだ場所を避けて一部コースを変更しましたが、概ね路面は問題なく、多くの参加者が一周約5kmのコースをおのおののペースで歩きました。



コースの途中に7ヶ所のチェックポイントがあり、そこに書かれた水鳥公園出題のクイズを解きながら歩くクイズラリーです。皆さん一斉にスマホで問題を検索したり仲間と相談したりしていましたが、わざと検索しにくい問題もあり、今年はかなり難しかったという声が多かったようです。

スタート後1時間が過ぎてから帰ってくる人が増え、ゴール後は受付で参加記念品（記念タオル、水鳥公園入館券など）をもらい、流れ解散です。クイズ全問正解者には豪華賞品も準備しました。12時でイベント終了し、役員は昼食後片付け、撤収しました。

参加者は昨年より減りましたが、前日までの雨が関係したかもしれません。主催者としては例年のことですが直前まで天気予報に気を揉み、野外イベントの天候頼みを再認識しましたが、参加者の「ありがとう」の一言に無事に終わった安堵感と満足感を覚えた一日でした。

米子水鳥公園をはじめ交通安全協会彦名支部、彦名公民館の皆さんなど多くの方に大変お世話になりました。紙面を借りてお礼申し上げます。

それにしても「晴れ男」西尾連合会長の威力は絶大でした（笑）



## はくく 地域で育む巖の子どもたち

巖地区自治連合会 景山 陽子

現在、地域での活動を継続することはとても難しくなってきました。私たち巖地区においても同じように感じております。

巖地区は、子育て世代への支援を主目的に青少年育成会が主体となってひまわり会、巖地区連合子ども会、米子市子ども会連合会、民生児童委員等のボランティア団体や地域の方のご協力をいただき活動しています。

毎年、新年度から6年生・5年生の子どもたちが中心となり、4月の第1回目の活動日に全地区の子ども会員が集まり1年間の活動計画を立てる所から巖地区連合子ども会の活動が始まります。

第1回目の活動日の計画会議では子どもたちが中心となり、米子市連合子ども会のジュニアリーダー・シニアリーダー・育成会の保護者の皆さまのサポートを貰いながら皆の希望をまとめ、計画を立て、一から作り上げていきます。最初は何をまとめているのか悩んでいる子どもたちも、話し合いが進むにつれて少しずつ活動のテーマが見えてきます。

毎年実施している子ども祭ではコンセプトを決め、遊び・

飲食・ゲーム等色々な場面を想像しながら企画・設営しています。

今年は「ハロウィンパーティー」と題して仮装あり、幼児の参加ありで楽しさだけではなく安全面や衛生面も考え工夫していました。参加人数は100人を超え事故もなく楽しい祭りができ、大成功を収めました。

さらに巖地区では長年「わら馬づくり」や地域の行事である「サイの神さん」「お餅つき」を続けています。行事の際は「サイの神さん」についての紙芝居や地域の方との話などを通じて子どもたちの学習の機会となっています。

地区の子どもたちの成長を願いながらこれからも継続していけるよう、地域の皆さまとともに活動していきたいと思っております。



## K.I オート

代表 儀 岩 一 則

〒683-0852 米子市河崎759-1  
TEL/FAX 0859-24-0263  
携 帯 090-9066-4664

## 島津組

くらしまズ

# clasimazu

くらしのまん中に、アイがある。

〒683-0009 鳥取県米子市観音寺新町3丁目4番29  
0120-475-008  
TEL : 0859-33-1319  
FAX : 0859-33-0780

## 地域活動感想画について

米子市自治連合会活性化委員会 岡田 隆

令和5年度に続き今年度も「地域活動の感想画」の募集を行い、各地区のこどもたちから総数214枚の応募をいただきました。

一次審査は図工担当の先生にお願いし、高学年、低学年各10名の入選作品を選んでいただきました。二次審査は各地区自治連合会の会長が持ち点制で優秀賞8名、最優秀賞1名を選びました。

どの作品も積極的に地域活動に参加したり日頃の活動を描いたり甲乙付けがたく、29人の会長は悩みました。地域活動を小さい時から体験することで、将来共に活動ができる事を願いながらの選考でした。なお、入選・入賞作品については、3月17日から4月11日まで米子市役所市民課ホールにて展示しておりますのでぜひご覧になってください。



応募のあった作品(入選作品の一部)

## 常任委員視察研修について

米子市自治連合会研修委員 深田 剛史

令和6年度の常任委員会視察研修は「まちづくり」に主題を置き、令和5年度台風7号による甚大な被害があった鳥取市自治連合会の方々と意見交換を通じ、「まちづくり」についての双方の共通点や相違点、今後の課題に対する展望などを共有することができました。同じ鳥取県内とはいえ、このような機会は初めてであり、仕組みの違いは

あれど、社会構造や意識の変化に伴う悩みは共通であると認識しました。

また、水害発生時に見つかった問題点や、それに対して自主防災組織のとった行動を今後の地域防災に生かすための取り組みについて、実体験に基づいた貴重なお話を伺うことができました。今回の研修においては有意義な意見交換を行うことができ、改めてこの成果が今後の米子市の自治連合会運営の一助となることを期待しております。



## 自治会長研修に参加して

福米西地区 新開西三区自治会長 池田 弘

令和6年12月8日(日)自治会長研修会が、米子市ふれあいの里で、研修テーマ「よなご避難ノート」の活用についてと題して開催され参加。予想していた研修内容について、資料として配布された避難ノートの内容説明と予想していたが、開講の初頭に講師の坂本氏より「今日はこれを使いません。もう一枚の講義ノート(ミニ試験用紙?)の内容で進みます。」と…チョット緊張…。

### ○ 米子市で起こりうる災害は?

世界的にみて日本は地震を避けることが出来ない国で、更に降水量が多く、様々な自然災害が発生する国である。自然災害の発生は人間の力で抑えることは出来ないが、住んでいる地域で起こりうる災害を把握し、日頃から災害に対する対策・心構えを備えておくことが防災・減災・縮災につながる事を学ぶ。

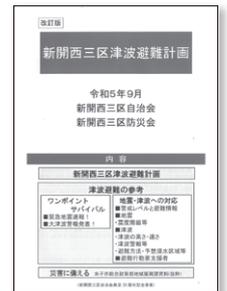
海に近い我が自治会では、令和2年度「新開西三区自治会地震時津波計画書」を670冊発刊、全戸配布し、まず住民の

皆さんに地域の状況を知ってもらう趣旨で少数班対象の防災セミナーの開催、令和5年度「同書 改訂版」を400冊発刊、参加者の一人でも「率先避難者」としての意識を持ってもらうことをセミナーの主目的として引き続き継続開催中。

### ○ 避難の考え方

指定された避難所より「災害被害のないエリアに逃げる」「安全な場所であればどこでも良い」まず避難所に逃げるのは必ずしも最適な考えではない事を学ぶ。併せて、各避難(場)所の役割等の学習、当自治会では津波時の避難先は国道431号線より市内方面への避難(福米西小学校)を基本に避難経路図で指示、パチンコジャンボマックス立体駐車場屋上を緊急避難先として協定を締結し、対応している。

最後に、今回の研修方法については、講義中心ではなく、参加者が自分事として考え諸問題ごとに取り組むことができ、有意義であったと感じました。当方のセミナーの持ち方について非常に参考になりました。



## 編集後記

昨年は事件、事故、そして災害の多い年で、いろいろな面で激動の一年であったと思います。特に災害、防災に関しては毎年のようにニュースになっていきます。令和6年も防災に対して自治会長研修会で「よなご避難ノート」の活用の仕方について講演がありました。各地区の自治会長さんは、各項目に対して避難の大切さを再確認されたと思います。さて、本紙面では各地区の活動をして伝統行事を守りながら活動されているところがよく分かります。今、各自治会では役員の高齢化、そして継承者不足になっていきます。いろいろな課題に対して地区の方と意見交換をしながら継承していかなくてはなりません。むずかしい問題ですが、各自治会において一丸となつて話し合いができる雰囲気になれば幸いです。終わりになりますが、自治連よなご六十七号の発行にあたり記事をお寄せいただきまして各地区の皆様へ感謝し、お礼申し上げます。今後とも皆様のご支援の程よろしくお祈りいたします。